



863  
74

新編  
古今  
和歌  
集

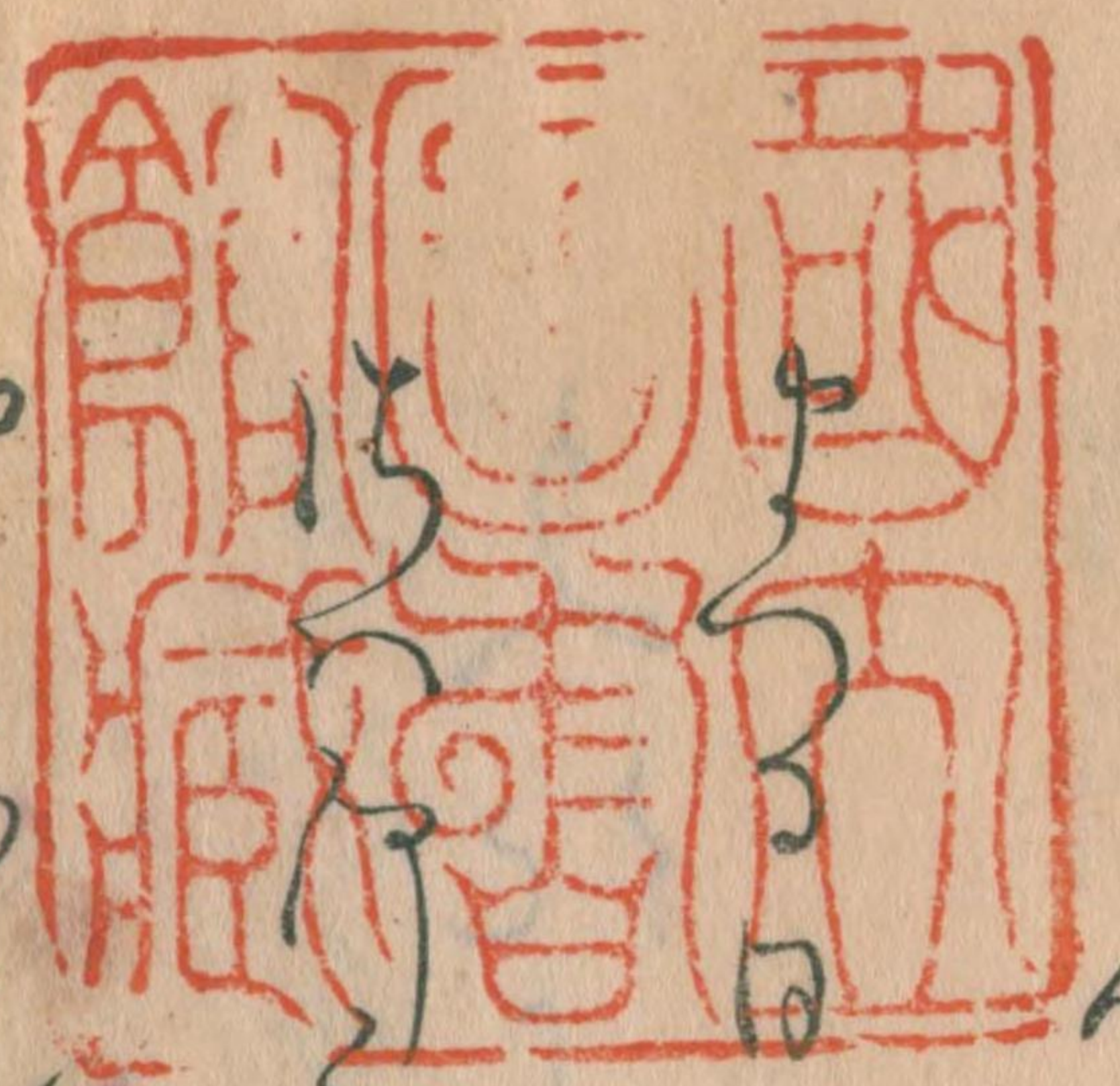


国立国会図書館 タイトル『しくれの忌』 請求記号 863-74

ガラス使用



Handwritten text in cursive Japanese style (sōsho), consisting of approximately 12 vertical lines of characters.



863-74





山崎 綾女

東山 春女

松尾 霞湖

文部省

文部省



春峰の草花の図

春峰

春の風を渡る鳥の図

一貫

春の山を渡る鳥の図

春坡



春上





あまのついでに

草阜 あまのついでに

あまのついでに

蘆阜

あまのついでに

春耕

あまのついでに

席丈

あまのついでに

霽雪

あまのついでに

如方

あまのついでに

と子

あまのついでに

蛇瞳

あまのついでに

路目

歌仙

あまのついでに

定雅

あまのついでに

處潮

あまのついでに

草阜

あまのついでに

響美





名月もたれ衣也つてあつゆを

蘆阜

大の乾きく丸まのそ

霽雪

秋のそよぶに佛乃乱ま

蛇瞳

内障眼まじし思ひたれ

湖陸

銅毛の粉ま散る影や

春耕

大名を末乃妹

席丈

紅梅の夜より積あそ煙ま

季曉

鳴るを昇込るけのそ

如方

桶廻しの川乃ほろこし

路周

十抱へてまわれし朴のな

雅

長刀を鬚者の言聞ふ無は

湖

臍押くひむのぬれ月

阜

一その焼翹毛とまわり失

美

雲のうらり成し西は

潮

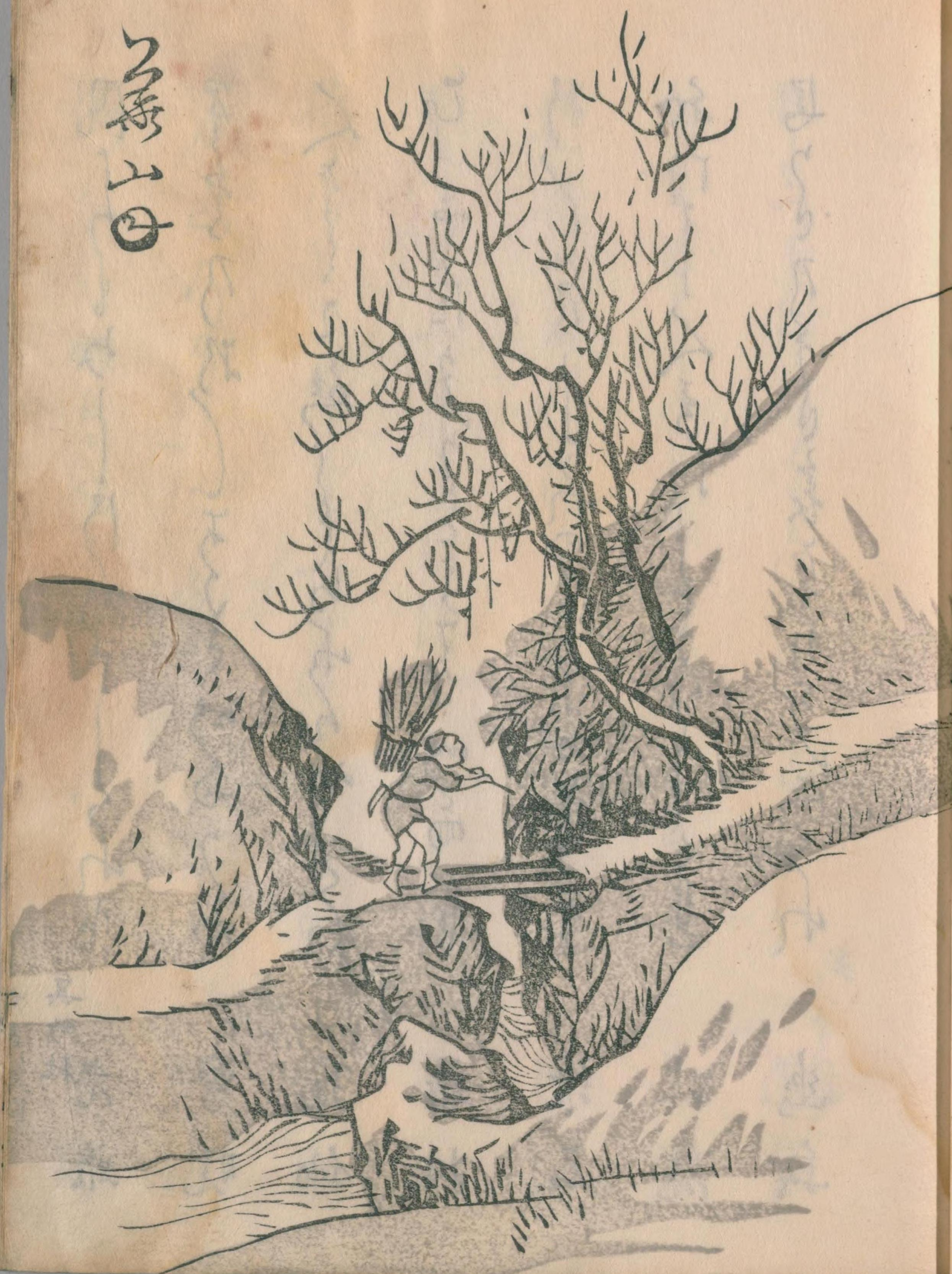








心と中



珠 穿し連乃男とんうふん  
 管 巻ふし梅さく口は  
 白りふふの女とんうふん  
 一 形力ふふれふふて

文 焼 周 瓶 筆

六









夕の雨（う）水（みづ）浦（うら）乃（の）山（やま）  
行（ゆ）風（かぜ）

○

夜（よ）の行（ゆ）時（とき）  
吐（つ）鳳（ほう）

目社

口（くち）の清（きよ）み  
蒼（あ）石（いし）

業（わざ）の戸（と）に  
酉（う）水（みづ）

身（み）の安（やす）  
唐（た）洲（しゅう）

一（ひと）の心（こころ）  
蝶（た）我（が）

一（ひと）の心（こころ）  
一（ひと）席（せき）

素（す）外（が）

小（こ）の雪（ゆき）

鳳（ほう）尾（び）

春（はる）山（やま）

目城南

梅（うめ）曉（あけぼの）

里（さと）橋（はし）







山東

歳川

嘯月

雅白

姦窓

朝三

佳秋

龜卜

芥水

○

巴大

依見

賀瑞

湖陸

雷塙



二 柳

一 止

二 丑

三 文

四 塘

五 宰

其 流

庵 行 者 ち 去 る 日 竹 雨

麦 所 茅 の ち ぼ ぼ ぼ 我 鳥

狐 神 も 二 度 ぼ ぼ ぼ 淀 角

茅 ぼ ぼ ぼ 香 揃

出 産 ち ち ち 磯 ち

濡 養 の 干 ぶ ち 千 柳

茅 ち 柳 ち ち 李 曉





心無の忌



鳥籠のこゝと備へしけれ

幾行

いづれもさうしつゝもたふたにさふみ

雪丸

うらわをさきかきしつゝ懐ふしけれ

狐友

うなりのこゝろしつゝは鹿うね

社衆

しつゝしつゝもれ中ふ日のし

芦水

ふあふいしつゝ後乃しけれ

一 聖門 供







曉乃花のしづれり鳴りぬ  
まね

ひやしとやうたるのるるは  
女  
のつね

あけろん片法の縮やねしぬ  
其川

川下に為るかかしてうり  
藤産

あけろんかねしとりの為あり  
冠弘

あけろんと内よなうかして  
貫山

あけろん  
○

あけろんあけろんあけろん  
高亭社  
移名

市すふねりあけろん小東あむ  
路莖

あけろんあけろんあけろん  
こら

居凡名と煙のやうに  
神山

夕ねあけろんあけろんあけろん  
宇光

あけろんあけろんあけろんあけろん  
鼠窟

あけろんあけろんあけろんあけろん  
帯罽





切

後上田



又信

冬の長衣をゆるふ小あはれ

士郎

冬乃羽もふもふちりし雪のひ

蒼乳

冬電や一ひき振りよる鹿

午心

つらふふふふふふふふふ

うづり

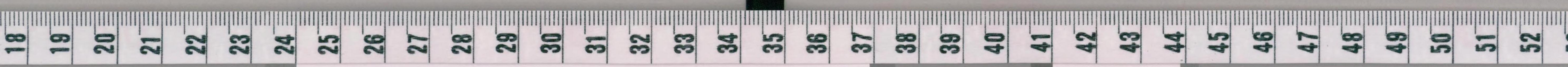
細川とらひとらひとらひとらひ

玉屑

くくくくくくくくくくく

裾長

十六





流うたうらりしりしりわん隅田川 春蟻

こひしよふまこころのしほし山 鷹羽

温るり用きたに臍乃用たり 若菜

糸乃乃根しきくわしりし 宋也

るるものよのちりし海をわらむ 銀隨

ふきふしりせぬしりし裏乃糸 文頂

初雪のまじりし雪の根をくれ 月長

きりしりしりしりしりし 定雅

きりしりしりしりしりし

冬のか

顔隠しに紐子に袴袴の小雪も 宋也

浦風をこころも枯るりりり 季謙

人の住りしりしりしりしりし 六磨



此院終つてはなほ... 雅好

枯下... 八日庵

... 美相

... 南行

... 響美

... 草阜

降るまの眉よ... 蘆阜

胡乃雨... 春耕

... 霽雪

水一重氷... 如方

... とみ

... 席文

... 蛇瞳









消印

863  
74

いふ十日の夢なるを  
法郎のふみ白なるを  
四方の念の如く  
しるねれ 祐とぬらん  
そのまをいふ  
ちるまをいふ  
志るまをいふ  
軒れ 研をぬらん

錦龍舎

羅慶  
王

書林  
京都室町一條下町  
平野屋善兵衛梓







消  
書  
新編  
書



国立国会図書館 タイトル『しくれの忌』 請求記号 863-74

ガラス使用